

ユネスコエコパークを活かした 持続可能なまちづくり

NPO法人宮崎文化本舗 代表理事
綾町ユネスコエコパーク推進室まちづくり専門監

● 石田 達也

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。6月下旬に宮崎県綾町で開催された今年度第1回（宮崎県綾町）実践塾の内容について、主任講師の石田達也氏にご報告いただいた。（地域支援課）

はじめに

一般財団法人地域活性化センターが地方創生を担う人材の育成と地域活性化の実践的なノウハウなどを学ぶ場として実施する「地方創生実践塾」の第1回が6月24日（水）から26日（金）の3日間、宮崎県綾町で開催された。

梅雨時の開催で生憎の雨模様の中、宮崎県内はもとより九州、沖縄、遠くは関東圏から自治体職員、地域おこし協力隊、地域づくり団体等28人の受講者が参加した。

綾町（平成27年3月末現在・人口7311人）は、宮崎県のほぼ中央に位置し、面積の約80%が森林で占められている。全国各地で天然林が

伐採されていた昭和40年代から、いち早く森林保護に取り組み、自然本来の生態系を残す日本最大の照葉樹林帯を守ってきた。昭和57年には九州中央山地国定公園に指定、自然生態系を生かし育てる町にしよう、という町憲章のもと自然と共生するまちづくりを実践し続けている。

また、基幹産業となる農業においても、農薬や化学肥料に頼らず資源循環による豊かな土づくりに取り組み、有機農業の町として知られている。昭和63年に全国ではじめて「自然生態系農業条例」を制定し、有機農産物、畜産物、手作りの工芸品など綾ブランドを確立した。

平成24年には、国内で32年ぶりとなるユネスコエコパークの認定を受

けたほか、近年では綾ブランドの特典を付したふるさと納税（2014年度実績・約10億円）が好評で全国的にも注目されている町である。

綾町が取り組んできた地域づくりの手法と、その成果、現状の課題等を学ぶことにより、それぞれの地域に応じた活性化のプロセスを考え、受講者と各地域の地域づくりの実態について情報交換を行い、最終的に各地域のまちづくりにどんな事業計画を企画するのかを考えると、内容で研修は行われた。

講義・パネルディスカッション （1日目）…綾町の地域づくり について長所と課題を共有

初日、主任講師の石田が綾町の概要について述べた後、宮崎大学教育文化学部の根岸准教授が経済学的な視点から綾町の状況について事例報告。株式会社カルチャーアットフォーシーズンの代表取締役社長中島氏から、綾町の集落における取り組みが報告された。中島氏は住民が如何に「当事者意識」を持てるかという問題を提起した。

次に「当事者」である、綾町上畑地区公民館長・小西氏から綾町の自治公民館制度と上畑地区の取り組みについての講義が行われた。

初日の白眉は講師の全員参加によるパネルディスカッションであった。石田がコーディネイトし、前出の3人に加え、2日目の講師となる

綾町の照葉樹林文化専門監・河野氏と、農業生産法人有限会社シードカルチャーの早川氏が加わった5人のパネルリストによる論議は、綾町の長所を語るだけでなく、現状抱えている課題や問題点を参加者と一緒に共有していった。活性化のモデルとして知られている地域も、そうでない地域も後継者不足、一部の人だけで回っている地域づくり、人の巻き込み方、リーダーの不在、など困っている問題についての共通項を見出せた。

フィールドワーク （2日目）…綾の照葉樹林などを視察

2日目は綾町の有機農法のアウトプットである「綾手づくりほんものセンター」を視察した。同センターは平成元年にできた産直品販売場で、有機農法で栽培された野菜や加工品を販売し年間3億円以上の売上げを誇る施設である。店長の梶山氏から産直販売場のシステムを学んだ後、有機農業の体験農園で人気を博している綾・早川農苑にて、有機農業の取り組みを聞き、実際に野菜の収穫、種付け等の作業を体験してもらい、農園で採れた野菜で作った昼食を取るという優雅な時間を過ごした。

午後は綾町のまちづくりの原点である照葉大吊橋の架かる照葉樹林帯を、河野専門監による解説で実際に



フィールドワークの様子（綾の照葉樹林）



グループワークの様子

山の中に入っていった。参加者の日頃の行いがいいのか、この日の日中は傘をささなくてもいい程度の

小振りの雨となった。

グループワーク （2日目、3日目）…課題解決 のための事業案作成と発表

2日目の午後から最終日にかけては自分たちが普段「課題」と感じていることから、地域づくりの「事業」として計画してみようというワークショップを石田の進行のもと行った。

①人材育成②地域資源の活用③移住・定住④コミュニティ・組織間連携、の4つのテーマ

について、5グループに分かれ、課題解決のための事業をどうやって組み立てていくかのワークショップを行い、最終的に発表した。

それぞれのグループからユニーク且つ創造的な事業プランが発表され、参加者同士がそれぞれの提案に対し鋭い突っ込みやアドバイスをを行った。

おわりに

3日間という限られた時間であったが、地域の持つ強み・弱みを如何にして活性化に結び付けていくのかという考え方や手法について学ぶことができたのではないかと思う。住民自らが「当事者」ということを認識し、どのような活

第1回地方創生実践塾（宮崎県綾町）の概要

第1日目 6月24日（水）

講義①「導入・まち紹介」

主任講師：石田 達也 氏

講義②「外から見た綾町」

特別講師：根岸 裕孝 氏（宮崎大学教育文化学部准教授）
中島 淳 氏

（株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ代表取締役社長）

講義③「綾町の自治公民館の取組」

特別講師：小西 俊一 氏（上畑自治公民館 館長）

パネルディスカッション「綾町の地域づくり」

コーディネーター：石田 達也 氏

パネリスト：根岸 裕孝 氏

中島 淳 氏

小西 俊一 氏

早川 ゆり 氏

（農業生産法人有限会社シードカルチャー代表取締役社長）

河野 耕三 氏

（綾町ユネスコエコパーク推進室照葉樹林文化推進専門監）

第2日目 6月25日（木）

講義④「ユネスコエコパークについて」

主任講師：石田 達也 氏

フィールドワーク①「綾手づくりほんものセンター」

主任講師：石田 達也 氏、梶山 剛 氏（綾手づくりほんものセンター 店長）

フィールドワーク②「綾・早川農苑」

特別講師：早川 ゆり 氏

フィールドワーク③「綾の照葉樹林（照葉大吊橋）」

特別講師：河野 耕三 氏

グループワーク

主任講師：石田 達也 氏

第3日目 6月26日（金）

グループワークまとめ・発表

主任講師：石田 達也 氏

講義⑤「総括」

主任講師：石田 達也 氏

動を展開すればいいのか。日本は、2100年には人口が3000万人台まで落ち込むという説もあり、地方創生と言われつつも、人口の減少、労働力の低下に対して実際にどうしているか分からない地域が日本中には多々ある。綾町は昭和40年代、短期間に半数近い住民が町外に出て行った町である。しかし、自然を守ることを軸に半世紀以上も地域づくりに取り組んできた成果が現在花開いている。

地域づくりは一朝一夕にできるものではない。テーマを絞って、永年の積み重ねにより生まれてきた成果がある。それぞれの町で何が弱みなのか、何が強みなのかを把握し、具体的な戦略をもって行動すれば時間がかかっても必ず成果は生まれることを感じ取ることができた研修であったと思う。綾町での実践塾開催の機会を与えていただいたこと、及び参加者の皆様にごの場をお借りして感謝申し上げます。